

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
横浜システム工学院専門学校	平成9年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人YSE学園	平成9年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
目的	DTP、Web、映像、CG、アニメーション、ゲームなどの制作に携わるデザイナーを育成するため、これらに求められる技術について、職業現場でのニーズをもとに検討したカリキュラムにより、現場で求められる技術要素を盛り込んだ講義、演習、実習などの教育を行い、職業実践的な人材を育成する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報デザイン科 (情報デザインコース)	平成27年 文部科学大臣告示第13号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,268	342	522	1,404	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
50人	4人	2人	2人	4人			
学期制度	■1学期:4月4日～6月10日 ■2学期:6月13日～9月9日 ■3学期:9月12日～11月18日 ■4学期:11月21日～2月10日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 SABCDの5段階評価 評点(100点満点、60点未満不可) 出席状況・課題への取り組み・達成結果・試験の結果を総合的に判断する。			
長期休み	■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:8月1日～8月19日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月27日～3月31日		卒業・進級条件	卒業要件:2268単位時間履修し、「卒業研究a」、「卒業研究b」、「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 課題や近況報告をメールや電話でやりとりし、保護者と連携して、無理のない範囲でスクーリングさせながら様子を見る。授業とは別に特別メニューを個別に用意して指導する。		課外活動	■課外活動の種類 お台場セイルデザインコンテスト入選 横浜市会ポスターデザイン公募受賞 希望が丘商店会フェスティバルロゴ作成 横浜市産学連携プログラム参加 ■サークル活動: 無			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 DTPデザイン、Webデザイン、CGデザイン(映像) ■就職率 ^{※1} : 80 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 57 % ■その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	色彩検定			
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成27年4月1日時点において、在学者9名(平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者9名(平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止のための取組 学生が孤立しないように教員が積極的にコミュニケーションづくりを働きかけている。出席状況や授業態度や興味関心意欲などは平素から担任が把握し、科に関わる教員間(常勤・非常勤含めて)で情報交換している。おかしい様子が見られるときには早め早めに本人やクラスメイトに働きかける。それでも改善が見られないときには、保護者に連絡を取り家庭での指導との連携を心がけている。出席面や学習面で合わない学生が出た場合には、別メニューで個別フォローをし、資格取得や作品作りで実績を作って自信を持たせるようにしている。		■中退率 0%				
ホームページ	http://www.vse.ac.jp/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つ人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

1) 教育課程の編成に関すること

① 企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。

2) 教育の実践に関すること

① 企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。

② 新鮮な実践的教材により、活かした育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。

③ 企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取り組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。

④ 経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選びを協議する。

⑤ 企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。

⑥ 企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。

⑦ 楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活かした課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。

⑧ YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活かした作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

(1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①—⑧の項目について協議するために、教育課程編成委員会で協議する。学科で編纂した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただき、その内容を教育にフィードバックする。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しへの提案やアドバイスをいただき、次年度のカリキュラムに反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～平成29年3月31日	①
浜口 大樹	横横浜市経済局中小企業振興部 横浜市工業技術支援センター デザイン支援 アートディレクター	平成26年9月1日～平成29年3月31日	①
石澤 勝	株式会社メディアライン 代表取締役社長	平成26年4月1日～平成29年3月31日	③
前園 悟	株式会社ヴェリー・ヴィジュアル・アソシエイツ 代表取締役社長	平成26年4月1日～平成29年3月31日	③
杉山 勝巳	横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員
佐藤仲造	横浜システム工学院専門学校 広報統括室長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	学校委員
坂 貴紀	横浜システム工学院専門学校 主任教師	平成27年4月1日～平成29年3月31日	学校委員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年2回実施する

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月29日 16:30～18:30

第2回 平成28年9月26日 16:30～18:30

平成27年度は下記2回開催

第1回 平成27年6月23日 16:30～18:30

第2回 平成27年9月16日 16:30～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 若者にとってデザイン分野の「楽しい・面白い」部分を強調し、アピールすべく学科・カリキュラムを構築していきたい。具体的には学校の装飾・広告・SNS部分でのデザイン分野のイメージ作りと発信が重要と考える。産学連携プログラムを通じて、コミュニケーションやプレゼンテーション部分を特に学んで欲しい。今年度も取り組んでいる産学連携プログラムであるが、技術はもちろんの事、進捗管理や前述したコミュニケーションやプレゼンテーションの部分。つまり対人としての能力部分も重視し、マインドスキルの強化に繋がりたいと考える。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育連携協定書の以下の項目

- ②新鮮な実践的教材により、活かした育てる実践的な教育を実施できるようにする。
- ⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。
- ⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育的推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるようにする。
- ⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活かした課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくりにしている。

1年次のキャリアデザインと2年次の卒業研究とは、企業の方の講演・実習・演習・指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマの掘り下げを行っている。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行った。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1年次のキャリアデザイン

自分のキャリアデザインを、実際に現場で仕事をしている方を指導員として仕事の全体像や、個々の仕事の説明を受け、課題制作を通して考える。キャリアをデザインする中で自分の専門学校での学びを位置づけて就業意識を高める。

実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

2年次の卒業研究

現在話題になっている技術や今後話題になる技術について、実際に現場で仕事をしている方を指導員として講演・実習・演習等の指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマを決めて掘り下げた。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
卒業研究a	映像制作における企画と絵コンテ制作	横浜市工業技術支援センター ユニパー株式会社
卒業研究b	映像制作における撮影とグラフィック制作と編集	横浜市工業技術支援センター ユニパー株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規則 第2条(研修の基本方針)

教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修・研究、並びに、専攻分野における授業及び学生に対する指導力を修得・向上するための研修・研究を目的として、企業等との連携のもと、組織的な研修の機会を設ける。

に基づき、研修に当たっては、職務の一環として参加している。

情報システム／組込みシステム系の技術に関しては進展の速度が速く、常に最新の技術動向を学習することが求められているため、本学科の担当教員については技術研修を重視し、積極的に研修に参加させている。また、企業現場での実績を重視した教員採用を行っているが、学生の指導に関しては専門学校で学生を指導するための技術が必要であり、指導技術についても積極的に参加させている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 1) 「ゲームエンジンセミナー」・・・外部講師を招いて研修
講師: エピックゲームズジャパンコミュニティマネージャ今井翔太氏
内容: スマートフォンゲームアプリのゲームエンジン「Unreal Engine4」についてのセミナー
受講者: 坂 貴紀
期間: 平成27年6月8日 10:00-15:00
- 2) 「GTMF (Game Tools & Middleware Forum)2015セミナー」・・・外部研修に参加
講師: GTMF参加企業
内容: ゲーム・アプリ業界の開発に関わるツールやミドルウェアなどのセミナー
受講者: 坂 貴紀
期間: 平成27年7月17日 10:00-17:00
- 3) 「Cloud利用・構築のための基礎セミナー」・・・外部研修に参加
講師: 株式会社内田洋行 茂手木
内容: クラウドとネットワーク系技術習得とレベルアップ、仮想化の演習、実際のCloudサイトでのPaaS構築
受講者: 坂 貴紀、他YSE-IS科教員
期間: 平成27年7月30日(9:00-17:00)、7月31日(9:00-17:00)
- 4) 「アニメ産業界プロフェッショナルの直接指導による教育機関指導者向けモデルカリキュラム体験講座」
・・・外部研修に参加
講師: 株式会社内田洋行 茂手木
内容: アニメーション教育指導者を対象とした人材育成のエキスパート達による実践講座
受講者: 坂 貴紀
期間: 平成28年1月22日(16:40-20:50)、1月23日(12:00-20:50)、1月24日(10:40-15:50)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 1) 教員研修: 担任力強化・指導力強化・・・外部講師を招いて研修
講師: 神奈川県立大和西高等学校キャリアガイダンスグループ飯沼氏
内容: 高等学校の教育現場の現状と学生に対する指導方法、専門学校教員の指導力について学ぶ研修。
受講者: 坂 貴紀、他のYSE専任教員
期間: 平成27年8月3日(16:00-17:30)
- 2) 創造性開発セミナー教育プログラム研修・・・外部講師を招いて研修
講師: 株式会社ビーコンラーニングサービス東野フェロー役員
内容: 組織(企業や学校や学科など)のマンネリ化を打破し、新しく改革・創造していくための実践型研修
受講者: 伊集院 正人、坂 貴紀、他のYSE専任教職員
期間: 平成27年12月24日(9:00-17:00)、25日(9:00-17:00)
- 3) アクティブラーニング ファシリテータ研修
主催者: 河合塾グループ 株式会社KEIアドバンス
外部講師: 株式会社ウチダ人材開発センター 鏡貴絵
内容: 成長分野における中核的専門人材育成等の戦略的推進事業でのアクティブラーニングとファシリテータ研修。
受講者: 坂貴紀、他YSE専任教員
期間: 平成28年1月21日(火)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 1) The day of 3ds Max～3ds Max 2017新機能紹介とユーザ事例セッション～
主催者: オートデスク株式会社
講師: 古島 隆吏、池谷 章、川瀧 智晴
内容: 3ds Max 2017の最新情報と各業界でユーザセッション
受講者: 坂 貴紀
期間: 平成28年4/27
- 2) Webサイトにおけるクラウドとプレゼンソフトを使った動的コンテンツ制作研修
主催者: 横浜システム工学院専門学校教育指導室
外部講師: 株式会社4CORORSコンテンツプロデューサー伊東剛
内容: 「クラウドとPowerPointを組み合わせた動的コンテンツ制作と集客スキル研修」
受講者: 坂貴紀、川又綾乃、佐藤伸造、他YSE専任教員
平成28年8月31日(水)、10月5日(水) 16時30分～18時30分

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 1) 「アクティブラーニング研修」
外部講師: 萱沼 義一(株)ビーコンラーニングサービス コンサルタント
内容: アクティブラーニング入門から応用まで
受講者: 坂貴紀、川又綾乃、佐藤伸造、他YSE専任教員
期間: 平成28年3月16日(水)、18日(金)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。
 本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標 ・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	(2) 学校運営 ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか
(3) 教育活動	(3) 教育活動 ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT 分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Do を意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT 分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか) ・情報・IT 分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか

(4) 学修成果	<p>(4) 学修成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	<p>(5) 学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<p>(6) 教育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
(7) 学生の受入れ募集	<p>(7) 学生の受入れ募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) ・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 教育の内部質保証システム	<p>(8) 教育の内部質保証システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか
(9) 財務	<p>(9) 財務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<p>(11) 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

企業等との連携については、共同開発を進めることで、技術進歩に広がりとお行きが出、教員や学生の新技术修得や開発プロセスの修得につながっていく。地域への貢献については、企業向けの社員研修講座や、近隣の奨学生を対象にしたプログラミング/ロボット教室を開催して、講評を博している。企業連携や地域貢献は、今後も一層強化していくことで、地域に根差した専門学校としての存在感を確かなものとしたい。より多くのステークホルダーに対して、多様なたちでの教育連携について検討し実施しなければならないとの認識を持ち、連携可能な科目・連携方法について検討していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
中村 隆一	秀英高等学校 校長	平成25年10月1日～成29年9月30日	校長
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～成29年9月30日	業界団体委員
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
藤原 美香	イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
新井 一功	株式会社機能性表示プランニング 監査役	平成27年6月1日～成29年5月31日	企業等委員
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
金子 秀光	株式会社横浜電算 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
久保寺 美奈	卒業生	平成25年10月1日～成29年9月30日	卒業生
森 るみ子	保護者	平成27年4月20日～成29年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.yse.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、6月の学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表できるようにしている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校案内 ごあいさつ、沿革、YSEの強み、交通アクセス、 情報公開 加入団体・教育連携
(2) 各学科等の教育	・学科案内 情報デザイン科 情報デザインコース CG・アニメーションコースコース、 ゲームデザインコース ・入学案内 募集学科・入学資格、入学方法、出願方法
(3) 教職員	・事業報告書(抜粋) ・平成28年度専任教員別主な担当科目一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内 就職サポート、大学編入サポート、就職先一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(抜粋)、 ・学校案内 実習室・施設・設備、 ・キャンパスライフ、YSE新聞
(6) 学生の生活支援	・入学案内 各種サポート制度
(7) 子育てサポート	・入学案内 学費・納入方法、学費分割納入制度
(8) 学校の財務	・財務計算に関する書類
(9) 学校評価	・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	・入学案内 留学生の受け入れ、留学生サポート制度
(11) その他	・学則、 ・チラシ・パンフレット 高等学校の先生方へ、先生対象セミナーのご案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.yse.ac.jp>

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科情報デザインコース) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報リテラシーa	PC・オフィスソフトの基本操作 (Word、Excel、PowerPoint) DTP検定	1 ①	36		○			○			
○			情報リテラシーb	情報システム・Webシステムの活用 J検3級	1 ①	18		○			○			
○			パソコン概論	コンピュータシステムの概要 J検(情報デザイン初級)	1 ②	36		○			○			
○			ビジネスマナー	社会人・ビジネスマンとしての マナー、ビジネス文書	1 ④	18		○			○			
○			プレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作成、 プレゼンテーション実践練習	1 ③	18		○			○			
○			文章作法	わかりやすい文章の作り方	1 ②	18		○			○			
○			ドローイングa	モチーフを正確に捉えるデッサン	1 ①	36				○	○			○
○			ドローイングb	身近なオブジェの遠近法デッサン	1 ②	36				○	○			○
○			ドローイングc	屋外にあるモチーフの透視図法 デッサン	1 ③	36				○	○			○
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科情報デザインコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ドローイングd	様々な技法を組み合わせたオリジナル作品制作	1 ④	36				○	○			○	
○			絵コンテ制作 a	絵コンテ作成	1 ①	36				○	○			○	
○			絵コンテ制作 b	各シーンの編集と効果	1 ②	36				○	○			○	
○			コンセプトメイキング a	デザインのリサーチ	1 ③	36			○		○			○	
○			コンセプトメイキング b	リサーチをもとに企画立案、プレゼンテーション、ディスカッション	1 ④	36			○		○			○	
○			カラーコーディネーションa	PCCSに基づいた色彩理論	1 ①	36			○		○			○	
○			カラーコーディネーションb	色彩理論を応用した作品制作、コンペ応募	1 ②	36			○		○			○	
○			デザインワーク基礎	Illustratorを使ってデザインワーク	1 ①	108				○	○			○	
○			デザインワーク応用	Photoshopを使ってデザインワーク	1 ②	108				○	○			○	
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科情報デザインコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		DTPデザインワーク	InDesignを使ってDTP作成実習	1 ③	108			○	○		○			
○			Webデザインワーク	DreamWeaverを使ってWeb制作実習	1 ④	108			○	○				○	
	○		デザイン作品制作	ポートフォリオ用作品制作、 コラボレーション	1 ③ ④	144			○	○		○			
○			キャリアデザイン Ia	学生生活指導、学修指導や検定 試験対策、補習など。将来設計 や就職に関わる見学などの実施	1 ①	18			○		○	○			
○			キャリアデザイン Ib	学生生活指導、学修指導や検定 試験対策、補習など。将来設計 や就職に関わる見学などの実施	1 ②	18			○		○	○			
○			キャリアデザイン Ic	就職などの将来設計と就職に関 わる履歴書等の作成、自分研究 と業界研究、会社説明会出席心 得	1 ③	18			○		○	○			
○			キャリアデザイン Id	就職などの将来設計と就職に関 わる履歴書等の作成、自分研究 と業界研究、会社説明会出席心 得	1 ④	18			○		○	○			
○			Web事例研究	Webサイト事例研究	2 ①	36			○		○			○	
○			アニメーションワーク a	アニメーション制作実習	2 ①	108			○	○		○			
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科情報デザインコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Webサイトデザイン	Webサイト全体のデザイン	2 ①	36				○	○			○	
○			アニメーションワークb	アニメーション制作実習	2 ②	72				○	○		○		
○			Web構築運用	Webサイト構築実習	2 ②	72				○	○			○	
○			Web運用保守	Webサイト運用	2 ③	72			○		○			○	
○			Web運用分析・セキュリティ	アクセス解析、セキュリティ対策	2 ④	72			○		○			○	
○			SNS/モバイル	モバイルサイト構築・運用	2 ③	36			○		○		○		
○			映像編集	映像編集	2 ④	36				○	○		○		
○			効果編集	効果編集	2 ③	36				○	○		○		
○			コンペ作品制作	デザイン作品制作、コンペ応募	2 ③ ④	144				○	○		○		
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科情報デザインコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		アニメ映像制作実習a	アニメ作品制作	2 ①	108				○	○		○		
	○		アニメ映像制作実習b	アニメ作品制作	2 ②	108				○	○		○		
○			卒業研究a	卒業研究テーマ検討、コンセプト設計、基本設計、プロトタイプ制作	2 ②	36				○	○	○	○	○	
○			卒業研究b	卒業研究テーマに基づく作品制作、プロトタイプの見直し	2 ③	36				○	○	○	○	○	
○			卒業研究c	卒業研究完成、発表資料作成、発表練習	2 ④	36				○	○	○	○	○	
○			キャリアデザインⅡa	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ①	18		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡb	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ②	18		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡc	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ③	18		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡd	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ④	18		○			○		○		
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科情報デザインコース) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	インターンシップ	職場実習 授業時数は、日報から算出する	2 通				○		○		○	
合計						46科目	2268単位時間(単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：2268単位時間履修し、「卒業研究a」「卒業研究b」「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	9週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
横浜システム工学院専門学校	平成9年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人YSE学園	平成9年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
目的	DTP、Web、映像、CG、アニメーション、ゲームなどの制作に携わるデザイナーを育成するため、これらに求められる技術について、職業現場でのニーズをもとに検討したカリキュラムにより、現場で求められる技術要素を盛り込んだ講義、演習、実習などの教育を行い、職業実践的な人材を育成する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報デザイン科 (CG・アニメーションコース)	平成27年 文部科学大臣告示第13号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,268	342	630	1,296	0	0
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人 の内数		9人	2人	2人	4人 の内数		
学期制度	■1学期:4月4日～6月10日 ■2学期:6月13日～9月9日 ■3学期:9月12日～11月18日 ■4学期:11月21日～2月10日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 SABCDの5段階評価 評点(100点満点、60点未満不可) 出席状況・課題への取り組み・達成結果・試験の結果を総合的に判断する。			
長期休み	■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:8月1日～8月19日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月27日～3月31日		卒業・進級条件	卒業要件:2268単位時間履修し、「卒業研究a」、「卒業研究b」、「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 課題や近況報告をメールや電話でやりとりし、保護者と連携して、無理のない範囲でスクーリングさせながら様子を見る。授業とは別に特別メニューを個別に用意して指導する。		課外活動	■課外活動の種類 お台場セイルデザインコンテスト入選 横浜市会ポスターデザイン公募受賞 希望が丘商店会フェスティバルロゴ作成 横浜市産学連携プログラム参画 ■サークル活動: 無			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 DTPデザイン、Webデザイン、CGデザイン(映像) ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 66% ■その他 (平成27年度卒業者に 平成28年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	色彩検定			
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成27年4月1日時点において、在学者9名(平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者8名(平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 中途退学者は留学生であり、当人が帰国を希望したため。		中退率	11.1%			
	■中退防止のための取組 学生が孤立しないように教員が積極的にコミュニケーションづくりを働きかけている。出席状況や授業態度や興味関心意欲などは平素から担任が把握し、科に関わる教員間(常勤・非常勤含めて)で情報交換している。おかしな様子が見られるときには早め早めに本人やクラスメイトに働きかける。それでも改善が見られないときには、保護者に連絡を取り家庭での指導との連携を心がけている。出席面や学習面で合わない学生が出た場合には、別メニューで個別フォローをし、資格取得や作品作りで実績を作って自信を持たせるようにしている。						
ホームページ	http://www.yse.ac.jp/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つ人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

1) 教育課程の編成に関すること

① 企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。

2) 教育の実践に関すること

① 企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。

② 新鮮な実践的教材により、活かした育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。

③ 企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取り組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。

④ 経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選びを協議する。

⑤ 企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。

⑥ 企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。

⑦ 楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会展等、時代の求める活かした課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。

⑧ YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活かした作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

(1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①—⑧の項目について協議するために、教育課程編成委員会では協議する。学科で編纂した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただき、その内容を教育にフィードバックする。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しへの提案やアドバイスをいただき、次年度のカリキュラムに反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～平成29年3月31日	①
浜口 大樹	横浜横浜市経済局中小企業振興部 横浜市工業技術支援センター デザイン支援 アートディレクター	平成26年9月1日～平成29年3月31日	①
石澤 勝	株式会社メディアライン 代表取締役社長	平成26年4月1日～平成29年3月31日	③
前菌 悟	株式会社ヴェリー・ヴィジュアル・アソシエイツ 代表取締役社長	平成26年4月1日～平成29年3月31日	③
杉山 勝巳	横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員
佐藤仲造	横浜システム工学院専門学校 広報統括室長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	学校委員
坂 貴紀	横浜システム工学院専門学校 主任教師	平成27年4月1日～平成29年3月31日	学校委員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年2回実施する

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月29日 16:30～18:30

第2回 平成28年9月26日 16:30～18:30

平成27年度は下記2回開催

第1回 平成27年6月23日 16:30～18:30

第2回 平成27年9月16日 16:30～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

若者にとってデザイン分野の「楽しい・面白い」部分を強調し、アピールすべく学科・カリキュラムを構築していきたい。具体的には学校の装飾・広告・SNS部分でのデザイン分野のイメージ作りと発信が重要と考える。産学連携プログラムを通じて、コミュニケーションやプレゼンテーション部分を特に学んで欲しい。今年度も取り組んでいる産学連携プログラムであるが、技術はもちろんの事、進捗管理や前述したコミュニケーションやプレゼンテーションの部分。つまり対人としての能力部分も重視し、マインドスキルの強化に繋がりたいと考える。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育連携協定書の以下の項目

②新鮮な実践的教材により、活かした育てる実践的な教育を実施できるようにする。

⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。

⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育的推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるようにする。

⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会展等、時代の求める活かした課題に取組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくるようにしている。

1年次のキャリアデザインと2年次の卒業研究とは、企業の方の講演・実習・演習・指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマの掘り下げを行っている。

実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行った。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1年次のキャリアデザイン

自分のキャリアデザインを、実際に現場で仕事をしている方を指導員として仕事の全体像や、個々の仕事の説明を受け、課題制作を通して考える。キャリアをデザインする中で自分の専門学校での学びを位置づけて就業意識を高める。

実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

2年次の卒業研究

現在話題になっている技術や今後話題になる技術について、実際に現場で仕事をしている方を指導員として講演・実習・演習等の指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマを決めて掘り下げた。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
卒業研究a	映像制作における企画と絵コンテ制作	横浜市工業技術支援センター ユニパー株式会社
卒業研究b	映像制作における撮影とグラフィック制作と編集	横浜市工業技術支援センター ユニパー株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規則 第2条(研修の基本方針)

教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修・研究、並びに、専攻分野における授業及び学生に対する指導力を修得・向上するための研修・研究を目的として、企業等との連携のもと、組織的な研修の機会を設ける。

に基づき、研修に当たっては、職務の一環として参加している。

情報システム／組込みシステム系の技術に関しては進展の速度が速く、常に最新の技術動向を学習することが求められているため、本学科の担当教員については技術研修を重視し、積極的に研修に参加させている。また、企業現場での実績を重視した教員採用を行っているが、学生の指導に関しては専門学校で学生を指導するための技術が必要であり、指導技術についても積極的に参加させている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) 「ゲームエンジンセミナー」・・・外部講師を招いて研修

講師: エピックゲームズジャパンコミュニティマネージャ今井翔太氏

内容: スマートフォンゲームアプリのゲームエンジン「Unreal Engine4」についてのセミナー

受講者: 坂 貴紀

期間: 平成27年6月8日 10:00-15:00

2) 「GTMF(Game Tools & Middleware Forum)2015セミナー」・・・外部研修に参加

講師: GTMF参加企業

内容: ゲーム・アプリ業界の開発に関わるツールやミドルウェアなどのセミナー

受講者: 坂 貴紀

期間: 平成27年7月17日 10:00-17:00

3) 「Cloud利用・構築のための基礎セミナー」・・・外部研修に参加

講師: 株式会社内田洋行 茂手木

内容: クラウドとネットワーク系技術習得とレベルアップ、仮想化の演習、実際のCloudサイトでのPaaS構築

受講者: 坂 貴紀、他YSE-IS科教員

期間: 平成27年7月30日(9:00-17:00)、7月31日(9:00-17:00)

4) 「アニメ産業界プロフェッショナルの直接指導による教育機関指導者向けモデルカリキュラム体験講座」

・・・外部研修に参加

講師: 株式会社内田洋行 茂手木

内容: アニメーション教育指導者を対象とした人材育成のエキスパート達による実践講座

受講者: 坂 貴紀

期間: 平成28年1月22日(16:40-20:50)、1月23日(12:00-20:50)、1月24日(10:40-15:50)

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 教員研修: 担任力強化・指導力強化・・・外部講師を招いて研修

講師: 神奈川県立大和高等学校キャリアガイダンスグループ飯沼氏

内容: 高等学校の教育現場の現状と学生に対する指導方法、専門学校教員の指導力について学ぶ研修。

受講者: 坂 貴紀、他のYSE専任教員

期間: 平成27年8月3日(16:00-17:30)

2) 創造性開発セミナー教育プログラム研修・・・外部講師を招いて研修

講師: 株式会社ビーコンラーニングサービス東野フェロー役員

内容: 組織(企業や学校や学科など)のマンネリ化を打破し、新しく改革・創造していくための実践型研修

受講者: 伊集院 正人、坂 貴紀、他のYSE専任教職員

期間: 平成27年12月24日(9:00-17:00)、25日(9:00-17:00)

3) アクティブラーニング ファシリテータ研修

主催者: 河合塾グループ 株式会社KEIアドバンス

外部講師: 株式会社ウチダ人材開発センター 鏡貴絵

内容: 成長分野における中核的専門人材育成等の戦略的推進事業でのアクティブラーニングとファシリテータ研修。

受講者: 坂貴紀、他YSE専任教員

期間: 平成28年1月21日(火)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) The day of 3ds Max～3ds Max 2017新機能紹介とユーザ事例セッション～

主催者: オートデスク株式会社

講師: 古島 隆史、池谷 章、川瀧 智晴

内容: 3ds Max 2017の最新情報と各業界でユーザセッション

受講者: 坂 貴紀

期間: 平成28年4/27

2) Webサイトにおけるクラウドとプレゼンソフトを使った動的コンテンツ制作研修

主催者: 横浜システム工学院専門学校教育指導室

外部講師: (株)4CORORSコンテンツプロデューサー伊東剛

内容: 「クラウドとPowerPointを組み合わせた動的コンテンツ制作と集客スキル研修」

受講者: 坂貴紀、川又綾乃、佐藤仲造、他YSE専任教員

平成28年8月31日(水)、10月5日(水) 16時30分～18時30分

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 「アクティブラーニング研修」

外部講師: 萱沼 義一(株)ビーコンラーニングサービス コンサルタント

内容: アクティブラーニング入門から応用まで

受講者: 坂貴紀、川又綾乃、佐藤仲造、他YSE専任教員

期間: 平成28年3月16日(水)、18日(金)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。
本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標 ・理念・目的・育人人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(2)学校運営	(2)学校運営 ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか
(3)教育活動	(3)教育活動 ・教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT 分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Doを意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT 分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員的能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか) ・情報・IT 分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか

(4) 学修成果	<p>(4) 学修成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	<p>(5) 学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<p>(6) 教育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
(7) 学生の受入れ募集	<p>(7) 学生の受入れ募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) ・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 教育の内部質保証システム	<p>(8) 教育の内部質保証システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか
(9) 財務	<p>(9) 財務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<p>(11) 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

企業等との連携については、共同開発を進めることで、技術進歩に広がりとお行きが出、教員や学生の新技术修得や開発プロセスの修得につながっていく。地域への貢献については、企業向けの社員研修講座や、近隣の奨学生を対象にしたプログラミング/ロボット教室を開催して、講評を博している。企業連携や地域貢献は、今後も一層強化していくことで、地域に根差した専門学校としての存在感を確かなものとしたい。より多くのステークホルダーに対して、多様なかたちでの教育連携について検討し実施しなければならないとの認識を持ち、連携可能な科目・連携方法について検討していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
中村 隆一	秀英高等学校 校長	平成25年10月1日～成29年9月30日	校長
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～成29年9月30日	業界団体委員
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
藤原 美香	イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
新井 一功	株式会社機能性表示プランニング 監査役	平成27年6月1日～成29年5月31日	企業等委員
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
金子 秀光	株式会社横浜電算 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
久保寺 美奈	卒業生	平成25年10月1日～成29年9月30日	卒業生
森 るみ子	保護者	平成27年4月20日～成29年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.yse.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、6月の学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校案内 ごあいさつ、沿革、YSEの強み、交通アクセス、 情報公開 加入団体・教育連携
(2) 各学科等の教育	・学科案内 情報デザイン科 情報デザインコース CG・アニメーションコースコース、 ゲームデザインコース ・入学案内 募集学科・入学資格、入学方法、出願方法
(3) 教職員	・事業報告書(抜粋) ・平成28年度専任教員別主な担当科目一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内 就職サポート、大学編入サポート、就職先一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(抜粋)、 ・学校案内 実習室・施設・設備、 ・キャンパスライフ、YSE新聞
(6) 学生の生活支援	・入学案内 各種サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	・入学案内 学費・納入方法、学費分割納入制度
(8) 学校の財務	・財務計算に関する書類
(9) 学校評価	・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	・入学案内 留学生の受け入れ、留学生サポート制度
(11) その他	・学則、 ・チラシ・パンフレット 高等学校の先生方へ、先生対象セミナーのご案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.yse.ac.jp>

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科CG・アニメーションコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報リテラシーa	PC・オフィスソフトの基本操作 (Word、Excel、PowerPoint) DTP検定	1 ①	36		○			○		○		
○			情報リテラシーb	情報システム・Webシステムの活用 J検3級	1 ①	18		○			○		○		
○			パソコン概論	コンピュータシステムの概要 J検(情報デザイン初級)	1 ②	36		○			○		○		
○			ビジネスマナー	社会人・ビジネスマンとしてのマナー、 ビジネス文書	1 ④	18		○			○		○		
○			プレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作成、 プレゼンテーション実践練習	1 ③	18		○			○		○		
○			文章作法	わかりやすい文章の作り方	1 ②	18		○			○		○		
○			ドローイングa	モチーフを正確に捉えるデッサン	1 ①	36				○	○			○	
○			ドローイングb	身近なオブジェの遠近法デッサン	1 ②	36				○	○			○	
○			ドローイングc	屋外にあるモチーフの透視図法 デッサン	1 ③	36				○	○			○	
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科CG・アニメーションコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ドローイングd	様々な技法を組み合わせたオリジナル作品制作	1 ④	36			○		○			○	
○			カラーコーディネーションa	PCCSに基づいた色彩理論	1 ①	36		○			○		○		
○			カラーコーディネーションb	色彩理論を応用した作品制作、コンペ応募	1 ②	36		○			○		○		
○			DTPデザインワーク	Indesignによるポスター・チラシ制作	1 ③	36				○	○		○		
○			デザインワーク基礎	Illustratorを使ってデザインワーク	1 ①	108			○		○		○		
○			デザインワーク応用	Photoshopを使ってデザインワーク	1 ②	108			○		○		○		
○			絵コンテ制作 a	絵コンテ作成	1 ①	36				○	○		○		
○			絵コンテ制作 b	各シーンの編集と効果	1 ②	36				○	○		○		
○			コンセプトメイキング a	デザインのリサーチ	1 ③	36		○			○		○		
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
1学期の授業期間	週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科CG・アニメーションコース) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンセプトメイキングb	リサーチをもとに企画立案、プレゼンテーション、ディスカッション	1④	36	○			○		○		
○			映像ビジュアルデザイン	After Effects、3DCGソフトを使用した映像のビジュアルデザイン	1④	72			○	○		○		
	○		キャラクターデザインa	頭身の低い簡単なキャラクターのデザイン(ツールは、アナログベース)	1②	36			○	○		○		
	○		キャラクターデザインb	人体や骨格の形、基礎を学びながら、オリジナル作品作り(デジタル、アナログ両方使用)	1③	36			○	○		○		
	○		キャラクターデザインc	人、動物、ロボット、様々なモチーフ作り(デジタル、アナログ両方使用)	1④	36			○	○		○		
	○		モーショングラフィックa	After Effectsによるモーショングラフィック制作	1③	36			○	○		○		
	○		モーショングラフィックb	After Effectsの3Dレイヤー、3Dトラッキング機能を使用した作品制作	1④	36			○	○		○		
	○		3DCG実習a	3DstudioMAX基本操作	1③	36			○	○		○		
	○		3DCG実習b	キャラクターのポリゴン制作	1④	36			○	○		○		
合計			科目		単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科CG・アニメーションコース) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザインa	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1①	18	○			○		○		
○			キャリアデザインb	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1②	18	○			○		○		
○			キャリアデザインc	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1③	18	○			○		○		
○			キャリアデザインd	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1④	18	○			○		○		
○			3DCG実習c	3DCG作品制作	2①	36			○	○		○		
○			映像編集	映像編集基礎。カット割り、トランジションによる演出	2④	36			○	○		○		
○			効果編集	After Effects応用。エフェクトを使用した効果的な演出	2③	36			○	○		○		
○			Webデザインワーク	Webサイト制作、Webサイト全体のデザイン	2①	72			○	○			○	
	○		Web構築運用	Webサイト構築実習	2②	72			○	○			○	
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科CG・アニメーションコース) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		Web運用保守	Webサイト運用	2 ③	72		○			○			
	○		SNS/モバイル	モバイルサイト構築・運用	2 ③	36		○			○			
	○		Web運用分析・セキュリティ	アクセス解析、セキュリティ対策	2 ④	72		○			○			
○			CGアニメーションワークa	キーフレーム操作を応用した様々なモーション表現	2 ①	72		○			○			
○			CGアニメーションワークb	AfterEffectsを使用したコンジット技法	2 ②	72		○			○			
○			CGアニメーション作品制作a	モーショングラフィック、3DCG、CG合成による作品制作	2 ①	108				○	○		○	
○			CGアニメーション作品制作b	モーショングラフィック、3DCG、CG合成による作品制作。コンペ応募	2 ②	108				○	○		○	
○			コンペ作品制作	CG/アニメ作品制作、コンペ応募	2 ③ ④	144				○	○		○	
○			卒業研究a	卒業研究テーマ検討、コンセプト設計、基本設計、プロトタイプ制作	2 ②	36				○	○	○	○	○
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科CG・アニメーションコース) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業研究b	卒業研究テーマに基づく作品制作、プロトタイプの見直し	2 ③	36			○	○	○	○	○	○
○			卒業研究c	卒業研究完成、発表資料作成、発表練習	2 ④	36			○	○	○	○	○	
○			キャリアデザインⅡa	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ①	18	○			○		○		
○			キャリアデザインⅡb	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ②	18	○			○		○		
○			キャリアデザインⅡc	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ③	18	○			○		○		
○			キャリアデザインⅡd	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ④	18	○			○		○		
		○	インターンシップ	職場実習 授業時数は、日報から算出する	2 通				○		○		○	
合計														
				52科目	2268単位時間()									単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：2268単位時間履修し、「卒業研究a」「卒業研究b」「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	9週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
横浜システム工学院専門学校	平成9年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人YSE学園	平成9年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
目的	DTP、Web、映像、CG、アニメーション、ゲームなどの制作に携わるデザイナーを育成するため、これらに求められる技術について、職業現場でのニーズをもとに検討したカリキュラムにより、現場で求められる技術要素を盛り込んだ講義、演習、実習などの教育を行い、職業実践的な人材を育成する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報デザイン科 (ゲームデザインコース)	平成27年 文部科学大臣告示第13号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,268	342	666	1,260	0	0
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人		4人	2人	2人	4人		
学期制度	■1学期:4月4日～6月10日 ■2学期:6月13日～9月9日 ■3学期:9月12日～11月18日 ■4学期:11月21日～2月10日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 SABCDの5段階評価 評点(100点満点、60点未満不可) 出席状況・課題への取り組み・達成結果・試験の結果を総合的に判断する。			
長期休み	■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:8月1日～8月19日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月27日～3月31日		卒業・進級条件	卒業要件:2268単位時間履修し、「卒業研究a」、「卒業研究b」、「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 課題や近況報告をメールや電話でやりとりし、保護者と連携して、無理のない範囲でスクーリングさせながら様子を見る。授業とは別に特別メニューを個別に用意して指導する。		課外活動	■課外活動の種類 お台場セイルデザインコンテスト入選 横浜市会ポスターデザイン公募受賞 希望が丘商店会フェスティバルロゴ作成 横浜市産学連携プログラム参画 ■サークル活動: 無			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 DTPデザイン、Webデザイン、CGデザイン(映像) ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 66% ■その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	色彩検定			
中途退学の現状	■中途退学者 4名 ■中退率 50% 平成27年4月1日時点において、在学者8名(平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者4名(平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 健康上の理由、経済的な理由、学習についていけなくなった等 ■中退防止のための取組 学生が孤立しないように教員が積極的にコミュニケーションづくりを働きかけている。出席状況や授業態度や興味関心意欲などは平素から担任が把握し、科に関わる教員間(常勤・非常勤含めて)で情報交換している。おかしい様子が見られるときには早め早めに本人やクラスメイトに働きかける。それでも改善が見られないときには、保護者に連絡を取り家庭での指導との連携を心がけている。出席面や学習面で合わない学生が出た場合には、別メニューで個別フォローをし、資格取得や作品作りで実績を作って自信を持たせるようにしている。						
ホームページ	http://www.yse.ac.jp/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つ人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

1) 教育課程の編成に関すること

① 企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。

2) 教育の実践に関すること

① 企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。

② 新鮮な実践的教材により、活かす育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。

③ 企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取り組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。

④ 経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選びを協議する。

⑤ 企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。

⑥ 企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。

⑦ 楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活かす課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。

⑧ YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活かす作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

(1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①—⑧の項目について協議するために、教育課程編成委員会で協議する。学科で編纂した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただき、その内容を教育にフィードバックする。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しへの提案やアドバイスをいただき、次年度のカリキュラムに反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～平成29年3月31日	①
浜口 大樹	横浜市経済局中小企業振興部 横浜市工業技術支援センター デザイン支援 アートディレクター	平成26年9月1日～平成29年3月31日	①
石澤 勝	株式会社メディアライン 代表取締役社長	平成26年4月1日～平成29年3月31日	③
前園 悟	株式会社ヴェリー・ヴィジュアル・アソシエイツ 代表取締役社長	平成26年4月1日～平成29年3月31日	③
杉山 勝巳	横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員
佐藤仲造	横浜システム工学院専門学校 広報統括室長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	学校委員
坂 貴紀	横浜システム工学院専門学校 主任教師	平成27年4月1日～平成29年3月31日	学校委員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年2回実施する

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月29日 16:30～18:30

第2回 平成28年9月26日 16:30～18:30

平成27年度は下記2回開催

第1回 平成27年6月23日 16:30～18:30

第2回 平成27年9月16日 16:30～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

若者にとってデザイン分野の「楽しい・面白い」部分を強調し、アピールすべく学科・カリキュラムを構築していきたい。具体的には学校の装飾・広告・SNS部分でのデザイン分野のイメージ作りと発信が重要と考える。産学連携プログラムを通じて、コミュニケーションやプレゼンテーション部分を特に学んで欲しい。今年度も取り組んでいる産学連携プログラムであるが、技術はもちろんの事、進捗管理や前述したコミュニケーションやプレゼンテーションの部分。つまり対人としての能力部分も重視し、マインドスキルの強化に繋がりたいと考える。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育連携協定書の以下の項目

②新鮮な実践的教材により、活かす育てる実践的な教育を実施できるようにする。

⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。

⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるようにする。

⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活かした課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくるようにしている。

1年次のキャリアデザインと2年次の卒業研究とは、企業の方の講演・実習・演習・指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマの掘り下げを行っている。

実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行った。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1年次のキャリアデザイン

自分のキャリアデザインを、実際に現場で仕事をしている方を指導員として仕事の全体像や、個々の仕事の説明を受け、課題制作を通して考える。キャリアをデザインする中で自分の専門学校での学びを位置づけて就業意識を高める。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

2年次の卒業研究

現在話題になっている技術や今後話題になる技術について、実際に現場で仕事をしている方を指導員として講演・実習・演習等の指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマを決めて掘り下げた。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
卒業研究a	映像制作における企画と絵コンテ制作	横浜市工業技術支援センター ユニパー株式会社
卒業研究b	映像制作における撮影とグラフィック制作と編集	横浜市工業技術支援センター ユニパー株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規則 第2条(研修の基本方針)

教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修・研究、並びに、専攻分野における授業及び学生に対する指導力を修得・向上するための研修・研究を目的として、企業等との連携のもと、組織的な研修の機会を設ける。

に基づき、研修に当たっては、職務の一環として参加している。

情報システム／組込みシステム系の技術に関しては進展の速度が速く、常に最新の技術動向を学習することが求められているため、本学科の担当教員については技術研修を重視し、積極的に研修に参加させている。

また、企業現場での実績を重視した教員採用を行っているが、学生の指導に関しては専門学校で学生を指導するための技術が必要であり、指導技術についても積極的に参加させている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 1) 「ゲームエンジンセミナー」・・・外部講師を招いて研修
講師: エピックゲームズジャパンコミュニティマネージャ今井翔太氏
内容: スマートフォンゲームアプリのゲームエンジン「Unreal Engine4」についてのセミナー
受講者: 坂 貴紀
期間: 平成27年6月8日 10:00-15:00
- 2) 「GTMF (Game Tools & Middleware Forum) 2015セミナー」・・・外部研修に参加
講師: GTMF参加企業
内容: ゲーム・アプリ業界の開発に関わるツールやミドルウェアなどのセミナー
受講者: 坂 貴紀
期間: 平成27年7月17日 10:00-17:00
- 3) 「Cloud利用・構築のための基礎セミナー」・・・外部研修に参加
講師: 株式会社内田洋行 茂手木
内容: クラウドとネットワーク系技術習得とレベルアップ、仮想化の演習、実際のCloudサイトでのPaaS構築
受講者: 坂 貴紀、他YSE-IS科教員
期間: 平成27年7月30日(9:00-17:00)、7月31日(9:00-17:00)
- 4) 「アニメ産業界プロフェッショナルの直接指導による教育機関指導者向けモデルカリキュラム体験講座」
・・・外部研修に参加
講師: 株式会社内田洋行 茂手木
内容: アニメーション教育指導者を対象とした人材育成のエキスパート達による実践講座
受講者: 坂 貴紀
期間: 平成28年1月22日(16:40-20:50)、1月23日(12:00-20:50)、1月24日(10:40-15:50)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 1) 教員研修: 担任力強化・指導力強化・・・外部講師を招いて研修
講師: 神奈川県立大和西高等学校キャリアガイダンスグループ飯沼氏
内容: 高等学校の教育現場の現状と学生に対する指導方法、専門学校教員の指導力について学ぶ研修。
受講者: 坂 貴紀、他のYSE専任教員
期間: 平成27年8月3日(16:00-17:30)
- 2) 創造性開発セミナー教育プログラム研修・・・外部講師を招いて研修
講師: 株式会社ビーコンラーニングサービス東野フェロー役員
内容: 組織(企業や学校や学科など)のマンネリ化を打破し、新しく改革・創造していくための実践型研修
受講者: 伊集院 正人、坂 貴紀、他のYSE専任教職員
期間: 平成27年12月24日(9:00-17:00)、25日(9:00-17:00)
- 3) アクティブラーニング ファシリテータ研修
主催者: 河合塾グループ 株式会社KEIアドバンス
外部講師: 株式会社ウチダ人材開発センター 鏡貴絵
内容: 成長分野における中核的専門人材育成等の戦略的推進事業でのアクティブラーニングとファシリテータ研修。
受講者: 坂貴紀、他YSE専任教員
期間: 平成28年1月21日(火)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 1) The day of 3ds Max～3ds Max 2017新機能紹介とユーザ事例セッション～
主催者: オートデスク株式会社
講師: 古島 隆史、池谷 章、川瀧 智晴
内容: 3ds Max 2017の最新情報と各業界でユーザセッション
受講者: 坂 貴紀
期間: 平成28年4/27
- 2) Webサイトにおけるクラウドとプレゼンソフトを使った動的コンテンツ制作研修
主催者: 横浜システム工学院専門学校教育指導室
外部講師: (株)4CORORSコンテンツプロデューサー伊東剛
内容: 「クラウドとPowerPointを組み合わせた動的コンテンツ制作と集客スキル研修」
受講者: 坂貴紀、川又綾乃、佐藤仲造、他YSE専任教員
平成28年8月31日(水)、10月5日(水) 16時30分～18時30分

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 1) 「アクティブラーニング研修」
外部講師: 萱沼 義一(株)ビーコンラーニングサービス コンサルタント
内容: アクティブラーニング入門から応用まで
受講者: 坂貴紀、川又綾乃、佐藤仲造、他YSE専任教員
期間: 平成28年3月16日(水)、18日(金)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。
 本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標 ・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	(2) 学校運営 ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか
(3) 教育活動	(3) 教育活動 ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT 分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導體制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Do を意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT 分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか) ・情報・IT 分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか

(4) 学修成果	<p>(4) 学修成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	<p>(5) 学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<p>(6) 教育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
(7) 学生の受入れ募集	<p>(7) 学生の受入れ募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) ・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 教育の内部質保証システム	<p>(8) 教育の内部質保証システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか
(9) 財務	<p>(9) 財務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<p>(11) 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

企業等との連携については、共同開発を進めることで、技術進歩に広がりとお行きが出、教員や学生の新技术修得や開発プロセスの修得につながっていく。地域への貢献については、企業向けの社員研修講座や、近隣の奨学生を対象にしたプログラミング/ロボット教室を開催して、講評を博している。企業連携や地域貢献は、今後も一層強化していくことで、地域に根差した専門学校としての存在感を確かなものとしたい。より多くのステークホルダーに対して、多様な私たちでの教育連携について検討し実施しなければならないとの認識を持ち、連携可能な科目・連携方法について検討し

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
中村 隆一	秀英高等学校 校長	平成25年10月1日～成29年9月30日	校長
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～成29年9月30日	業界団体委員
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
藤原 美香	イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
新井 一功	株式会社機能性表示プランニング 監査役	平成27年6月1日～成29年5月31日	企業等委員
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
金子 秀光	株式会社横浜電算 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
久保寺 美奈	卒業生	平成25年10月1日～成29年9月30日	卒業生
森 るみ子	保護者	平成27年4月20日～成29年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:http://www.yse.ac.jp

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、6月の学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表できるようにし

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校案内 ごあいさつ、沿革、YSEの強み、交通アクセス、 情報公開 加入団体・教育連携
(2) 各学科等の教育	・学科案内 情報デザイン科 情報デザインコース CG・アニメーションコースコース、 ゲームデザインコース ・入学案内 募集学科・入学資格、入学方法、出願方法
(3) 教職員	・事業報告書(抜粋) ・平成28年度専任教員別主な担当科目一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内 就職サポート、大学編入サポート、就職先一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(抜粋)、 ・学校案内 実習室・施設・設備、 ・キャンパスライフ、YSE新聞
(6) 学生の生活支援	・入学案内 各種サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	・入学案内 学費・納入方法、学費分割納入制度
(8) 学校の財務	・財務計算に関する書類
(9) 学校評価	・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	・入学案内 留学生の受け入れ、留学生サポート制度
(11) その他	・学則、 ・チラシ・パンフレット 高等学校の先生方へ、先生対象セミナーのご案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:http://www.yse.ac.jp

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科ゲームデザインコース) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報リテラシーa	PC・オフィスソフトの基本操作 (Word、Excel、PowerPoint) DTP検定	1 ①	36		○			○	○		
○			情報リテラシーb	情報システム・Webシステムの活用 J検3級	1 ①	18		○			○	○		
○			パソコン概論	コンピュータシステムの概要 J検 (情報デザイン初級)	1 ②	36		○			○	○		
○			ビジネスマナー	社会人・ビジネスマンとしてのマナー、ビジネス文書	1 ④	18		○			○	○		
○			プレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作成、プレゼンテーション実践練習	1 ③	18		○			○	○		
○			文章作法	わかりやすい文章の作り方	1 ②	18		○			○	○		
○			ドローイングa	モチーフを正確に捉えるデッサン	1 ①	36					○	○		○
○			ドローイングb	身近なオブジェの遠近法デッサン	1 ②	36					○	○		○
○			ドローイングc	屋外にあるモチーフの透視図法デッサン	1 ③	36					○	○		○
合計			科目		単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科ゲームデザインコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ドローイングd	様々な技法を組み合わせたオリジナル作品制作	1 ④	36				○	○			○	
○			DTP実習	InDesignによるポスター・チラシ制作	1 ③	36				○	○			○	
○			絵コンテ制作 a	絵コンテ作成	1 ①	36				○	○			○	
○			絵コンテ制作 b	各シーンの編集と効果	1 ②	36				○	○			○	
○			コンセプトメイキング a	デザインのリサーチ	1 ③	36			○		○			○	
○			コンセプトメイキング b	リサーチをもとに企画立案、プレゼンテーション、ディスカッション	1 ④	36			○		○			○	
○			カラーコーディネーションa	PCCSに基づいた色彩理論	1 ①	36			○		○			○	
○			カラーコーディネーションb	色彩理論を応用した作品制作、コンペ応募	1 ②	36			○		○			○	
○			デザインワーク基礎	Illustratorを使ってデザインワーク	1 ①	108			○		○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科ゲームデザインコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			デザインワーク応用	Photoshopを使ってデザインワーク	1 ②	108			○		○		○		
	○		デジタルサウンド実習	デジタルサウンドの基本。 効果音編集・BGM編集	1 ③	72				○	○		○		
	○		アニメーションワーク	CGソフト、AfterEffects等、ソフトを問わずアニメーションの基礎(キーフレーム等)について理解	1 ③	72			○		○		○		
	○		モーション・エフェクト基礎	CGキャラクターのモーション・エフェクト制作の基礎。CGソフト+ゲームエンジンを使用	1 ④	108			○		○		○		
○			3DCG実習a	3DstudioMAX基本操作	1 ③	36				○	○		○		
○			3DCG実習b	キャラクターのポリゴン制作	1 ④	36				○	○		○		
○			キャリアデザインa	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1 ①	18			○		○		○		
○			キャリアデザインb	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1 ②	18			○		○		○		
○			キャリアデザインc	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1 ③	18			○		○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科ゲームデザインコース) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザインd	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1 ④	18	○			○		○		
○			3DCG制作実習	3DCG作品制作	2 ①	36			○	○		○		
○			映像編集	映像編集基礎。カット割り、トンジションによる演出について	2 ④	36			○	○		○		
○			効果編集	After Effects応用。エフェクトを使用した効果的な演出	2 ③	36			○	○		○		
○			コンペ作品制作	CG/アニメ作品制作、コンペ応募	2 ③ ④	144			○	○		○		
○			Webデザインワーク	Dreamweaverを使ってWeb制作実習	2 ①	72			○	○			○	
	○		SNS/モバイル	モバイルサイト構築・運用	2 ③	36		○		○		○		
○			ゲームCG制作実習 (キャラクタ)	リアルタイム向けゲームモデル制作。テクスチャマッピング、ライティング、背景画像制作	2 ①	72			○	○		○		
○			ゲームCG制作実習 (背景)	リアルタイム向けゲームモデル制作。テクスチャマッピング、ライティング、背景画像制作	2 ①	72			○	○		○		
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科ゲームデザインコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			モーション・エフェクト応用制作	CGキャラクターのモーション・エフェクト制作の応用。CGソフト+ゲームエンジンを使用	2 ②	108			○	○		○			
○			モーション・エフェクト応用演出	CGキャラクターのモーション・エフェクト制作の応用。CGソフト+ゲームエンジンを使用	2 ③ ④	108			○	○		○			
	○		Web構築運用	Webサイト構築実習	2 ②	72			○	○				○	
	○		Web運用保守	Webサイト運用	2 ③	72			○	○				○	
	○		Web運用分析・セキュリティ	アクセス解析、セキュリティ対策	2 ④	72			○	○				○	
○			卒業研究a	卒業研究テーマ検討、コンセプト設計、基本設計、プロトタイプ制作	2 ②	36			○	○	○	○	○	○	
○			卒業研究b	卒業研究テーマに基づく作品制作、プロトタイプの見直し	2 ③	36			○	○	○	○	○	○	
○			卒業研究c	卒業研究完成、発表資料作成、発表練習	2 ④	36			○	○	○	○	○	○	
○			キャリアデザインⅡa	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ①	18		○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

授業科目等の概要

(工業専門課程情報デザイン科ゲームデザインコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザインⅡb	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ②	18		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡc	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ③	18		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡd	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ④	18		○			○		○		
		○	インターンシップ	職場実習 授業時数は、日報から算出する	2 通					○		○		○	
合計						49科目	2268単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：2268単位時間履修し、「卒業研究a」「卒業研究b」「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	9週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。